

## もくじ

- ・ まのいいりょうし

# まのいいりょうし

げんさく： にほんのむかしばなし

イラスト： キタマキ

へんしゅう： イエローボードプロジェクト



むかし むかし、あるむらに、  
どんべえさん という りょうしのおとこが  
すんでいました。

どんべえさんは まいにち てっぼうをもって、  
やまへ かりに でかけていました。

しかし このどんべえさん、  
てっぼうのうちでは いまいちで、  
ろくに えものに あたった ためしが  
ありません。

そのひ、どんべえさんは きのえだに  
おおきなとりが とまっているのを  
みつけました。

「おお、きょうはまた ずいぶんとはやく  
えものに であえたな。  
なんとまあ、まがいいんだろう」

どんべえさんは とりに ねらいをさだめて、  
ドンと うちました。



さて、てっぼうからでた たまが、  
どこをどう とんだかという、  
とりの とまっていた きのえだを  
とおりぬけて、あっちのき、こっちのきと  
はねかえり、しまいには くさむらで  
ひるねをしていた いのししの おしりに  
あたりました。

いのししは かんかんに おこり、  
どんべえさんめがけて つっこんできました。

「ひえ～、おたすけ～！」

どんべえさんは ひっしに はしって、  
めのまえにあった たかいきに のぼりました。  
いのししは、どんべえさんの のぼった きの  
ねもとに そのまま ぶつかって、  
きをうしなってしまうました。

「あれまあ、とりをうったら、  
いのししが つかまったぞ。  
こりやまた、なんと まがいいんだろう」

